2019年9月21日 土曜日

S級最終審査報告

報告者　　川井　剛

担当ゲーム

2019年度天皇杯皇后杯１次ラウンド（中地区）

近畿大学（大阪）vs富山大学（富山）

CC：西（徳島）　/ U1：伊藤（岩手）　/ U２：川井

PGC（ゲーム前）

８：００～　ホテルにてteam情報を中心に確認

事前に富山大学、近畿大学ともに映像を入手することができたので、それぞれがスカウティングをしたことを確認。アクティブマッチアップの把握に生かすことができた。

９：３０　ホテル発　タクシーにて会場入り

１０：００　会場着　　審査ゲームのコート確認。メインクロックの位置ショットクロックの位置などを確認。サイドライン側がとても狭かったので、スローインで気をつけることを確認。

１０：３０　ホテルで確認が出来なかった部分の確認。

主に：今シーズンのテーマ（POC、チェックイン。チェックアウト、デリバリースキル、ゲームフローの把握、アクティブリード、アクティブマッチアップの把握　など）

評価表に基づいて：全項目の確認

映像：machanics、クロックコントロール、IOTを中心に

１１：００　TOミーティング（高校生が担当）

TOの役割と名前を覚える。投げ入れ、マネージャー等から質問があった際の対応など、細かい部分も入念に確認。

１１：４５　court in

１２：００　ゲーム開始

ゲームの実際

１Q　CCの西さんを中心に、テンポを作ってくださった。近畿大学がスタメン二人を怪我で出場させることができない中、富山大学も監督とエースセンター不在と、両teamともにスカウティングとは違った流れでゲームがスタートした。自分のエリアでの判定は少なかった。EOQの場面で、ラスト５．３秒、バックコートからのスローインで再開の場面。centreにいた自分が間違えてクロックプライマリーの合図を出してしまった。クルーで修正ができないまま、EOQでのラストショットシチュエーションがあり、centreサイドでの出来事でカウントと判定。そのままクウォーターエンドのコールをしたが、後から間違いに気がついたクルーのコールと重なってしまい、EOQのプライマリーをミスして終わってしまった。得点はカウントで間違ってはいなかった

２Q　１QのEOQミスは気にせず、あと３回起こるEOQをミスなしで終えようと確認。特にノイズを感じることなくゲームに入ることができた。１Q同様、リズムが合わない近畿大学を富山大学がリードする展開でゲームが進んだ。１Qのテンポセットもあってか、両teamともにファウル数は１Qよりも少なかった。１Qから、TOの不安定さが見られていたが、適宜近くにいるレフェリーが対応し、修正をしてきていたので、ミスなくスムーズに進行することができた。ショットクロックについては、ほぼ完璧に操作することができていたので、ハーフタイム

にコミュニケーションを図り、自信に繋げた。EOQは１Qの確認通り、クルーで間違えることなくできた。

３Q　近畿大学のスイッチが入った時に乗り遅れないようにということで３Qに臨んだ。予想していた通り、近畿大学が勢いに乗り、一気に点差を詰めてシーソーゲームとなった。その中で、クルーの判定に対して過度なアピールがあった場面、クルー間で起こったNF /UFか迷う場面において、CCMを発揮してその場をコントロールすることができなかったことが、悔いが残った。相手の判断や様子に合わせてしまう、自分の悪い癖が出てしまった。その中でも、接戦になった中での表示物への気配り、クロックコントロール、自分のエリアでのオヴィアスなものへの判定はできたので、これまでの積み重ねが発揮された場面だったと感じた。

４Q　近畿大学のペースになりそうながらも富山大学がふんばり、点差が開かないままゲームが進んだ。両teamともにメンバーチェンジが多く、自分たちのメッセージがしっかりと伝わっていなかったように感じた。また、バタバタとした展開の中でローテーション中にスティールがあり、ダブルセンターになるケースがあった。自分がトレイルだったのだが、その場面に気づくのが遅く、トレイルとしてアジャストするタイミングが遅くなってしまった。ゲーム終盤にかけて、近畿大学がジワジワと点差を広げる展開となり、最終スコア８２－７１で近畿大学が勝利した。

MTG（審査会なのでクルーで実施）

・メカニクスの崩れた原因について

・大きなアピールがあった出来事への対応について

・表示物の管理はよくできた

・留学生のフラストレーションについて

全体を通して

１次審査であった４月以降、県内外の大会において自分のストロングポイントを知り、ウィークポイントを改善するように努めて参りました。IHやBリーグのプレシーズンマッチ、学生リーグでのCCの経験など、多くのことを経験させてもらいながらこの日を迎えました。

経験する中で身についたことは、フィジカルレベルに圧倒されなくなったこと、選手やベンチとのコミュニケーションをとることができるようになったこと、強い気持ちで決断をすることができるようになったこと、表示されているものに気を配り、常に正しい情報を把握していることなどである。これらの面に関しては、今回の審査においても発揮できたのではないかと思います。

課題として、テンポセットへの参加、CCMを発揮したい場面でのあり方、想定外のことがあった際のばたつき、illegal /marginalの見極めなど、今回も悔いが残った部分がありました。

良くも悪くも、今の自分を出すことはできたので、これまでの取り組みを自分自身で評価しつつも、今後まだまだ多く残っている課題を一つずつ潰していき、ストロングポイントを伸ばしていきたいです。